

昭和62年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
不良	やや不良	平年並	不良	平年並	不良

I. 気象概況

4月から10月までの概況は次のとおりである。

4月：

3月の気温は平年並であったが、根雪(長期積雪)終わりは、平年より6日遅い4月16日であった。積雪期間は147日で平年より18日遅かった。4月の気温は平年並で、降水量は上・中旬が平年より多く、日照時間は平年より長かった。耕鋤始めは5月2日で平年より3日遅かった。

5月：

平均気温は平年並、降水量は上旬が平年より14.2mm多く、中・下旬は平年より9～13mm少なかった。日照時間は、上・中旬が平年より多く、下旬が少なかった。晩霜は5月15日で平年より11日遅かった。

6月：

平均気温は、上旬が平年より1.8度、下旬が平年より0.7度高く、中旬が平年より1.2度低かった。降水量は中・下旬が平年より少なく、日照時間は平年より多かった。

7月：

平均気温は平年よりやや低めで、降水量は平年より23.4mm～46.0mm多く、日照時間は、中・下旬が平年より6.8、10.2時間少なかった。

8月：

気温は全般的に平年より低く、特に上旬は4.2度平年より低かった。降水量は、上・中旬が平年より34.6mm・40.8mmと少なかった。しかし8月26日には、121.5mmの豪雨があったため、下旬は平年より84.1mm多かった。日照時間は全般的に平年より少なかった。

9月：

気温は全般的に平年並で、降水量は、上・中旬が平年より52.7mm・28.9mmと少なく、下旬は平年よりやや多かった。日照時間は平年よりやや多かった。なお、9月1日には、台風12号くずれの温帯低気圧による強風があった。

10月：

平均気温は、平年並で、降水量は上旬が平年より5.4mm少なく、中旬は平年より19.2mm多く、下旬は38.3mm少なかった。日照時間は、ほぼ平年並であった。初霜は10月10日で平年より4日早かった。しかも晩霜が遅かったため、無霜期間は148日と平年より15日短かった。

以上、農耕期間(4～10月)の積算平均気温は、2997.1度で平年(3073.1度)より76.0度低かった。5月下旬、6月中旬、および8月上・中旬の気温は平年より低かったが、それ以外は全般的に平年並であった。降水量は613.0mmで平年(623.6mm)より10.6mm少なかった。日照時間は7月下旬から8月下旬にかけてかなり少なかったが、通算すると平年(1413.7時間)より7.3時間少ない1406.4時間であった。

季節表

年次	根雪始 (61年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	11.21	4.16	147	5.5	5.2	5.15	10.10	148	11.13
平年	12.7	4.10	129	4.15	4.29	5.4	10.14	163	10.28
比較	△14	6	18	20	3	11	△4	△15	16

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)	
4～ 10月	本年	2,997	4,049	1,936	613	1,406
	平年	3,073	4,144	2,000	624	1,414
	比較	△76	△95	△64	△11	△8
5～ 9月	本年	2,569	3,297	1,796	466	1,000
	平年	2,615	3,367	1,861	467	1,066
	比較	△46	△70	△65	△1	△66

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

II. 昭和62年度の作況

1. 秋播小麦 昭和62年度の作況:不良

事由:播種期は平年と同日の9月13日に行った。9月18日の降雨により齊一に発芽し、発芽期は9月20日であった。越冬前の生育は平年並であったが、赤さび病の秋期発生が例年になく多かった。根雪始が11月21日で平年より15日早かった。4月下旬は気温が低く、降雪があり根雪終わりは4月16日で平年より7日遅れた。積雪期間が著しく長く、褐色雪腐病及び紅色雪腐病の被害が平年より多かった。5月20日の生育は雪腐病の被害が多かったことから、草丈、茎数ともに平年より劣った。5月下旬は気温がやや低かったが、6月上旬は高温に経過した。出穂期は両品種ともに平年と同日であった。出穂以降6月下旬までの登熟期前半は干ばつに経過したため稈長の生育は抑制され、両品種とも平年より8cm短かった。7月上旬は降雨日数が5日もあり干ばつは解消されたが、登熟期前半の干ばつが影響して、成熟期は平年より6~8日早かった。子実重は雪腐病の被害が多かったことから、穂数が少なく低収であった。また、「ホロシリコムギ」の千粒重は平年より軽く、整粒歩合が45%で品質(等級)は規格外であった。

以上により、昭和62年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(昭61.月.日)	9.13	9.13	0	9.13	9.13	0	
出穂期(月.日)	6.12	6.12	0	6.5	6.5	0	
成熟期(月.日)	7.22	7.28	△6	7.15	7.23	△8	
草丈 (cm)	昭61.10月20日	20	19	1	21	△1	
	5月20日	32	44	△12	31	△12	
	6月20日	85	101	△16	90	△10	
茎数 (本/㎡)	5月20日	717	1167	△450	849	1011	△162
	6月20日	552	580	△28	675	630	45
成熟期に おける	稈長(cm)	89	97	△8	83	91	△8
	穂長(cm)	9.4	9.0	0.4	7.5	8.4	△0.9
	穂数(本/㎡)	458	564	△106	545	595	△50
子実重(kg/10a)	418	538	△120	379	490	△111	
リットル重(g)	755	771	△16	783	786	△3	
千粒重(g)	41.6	44.8	△3.2	39.9	40.6	△0.7	
品質(等級)	等外	1	—	2	1	—	
子実重平年対比(%)	78	100	△22	77	100	△23	

注) 平年値は前7か年中、昭和57年、61年(各収穫年度)を除く5か年平均。

2. 大豆 昭和62年度の作況:やや不良

事由:播種期は5月18日で平年並であった。播種後の6月上旬に高温に経過したことにより、出芽期は平年より2～3日早まった。初期生育はやや干ばつに推移したことおよび6月中旬からの低温により抑制された。しかし、7月上旬より多雨曇天となり軟弱徒長気味の生育となった。さらに7月下旬から8月中旬までも多雨傾向に推移し、極めて軟弱な生育になった。開花期はいずれの品種も平年に比べて1～3日早かった。8月下旬は日照時間が少なく多雨であった。また、9月1日に温帯低気圧による強風でかなり葉が損傷し、倒伏が進んだ。登熟期は平年並の気候に推移したが、生育後期の風害および8月下旬の長雨によりいずれの品種も成熟期が4～9日と異常に早まった。主茎長は「ユウヅル」と「ユウヒメ」では平年より勝っており、主茎節数は3品種とも平年並であった。分岐数と着莢数はいずれの品種も平年より劣った。百粒重は「北見白」と「ユウヒメ」は平年より劣り、「ユウヅル」は勝った。子実重は平年に比べて「北見白」が96%、「ユウヅル」が94%、「ユウヒメ」が97%といずれの品種も平年より劣った。これは3品種とも着莢数が2～4莢少ないことおよび「ユウヅル」を除いて百粒重が小さかったことによる。以上により、昭和62年度の作況はやや不良である。

品種名 項目/年次	北見白			ユウヅル			ユウヒメ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月,日)	5.18	5.18	0	5.18	5.18	0	5.18	5.18	0	
出芽期(月,日)	6.7	6.9	△2	6.7	6.10	△3	6.7	6.10	△3	
開花期(月,日)	7.23	7.26	△3	8.1	8.2	△1	7.27	7.28	△1	
成熟期(月,日)	9.27	10.6	△9	10.15	10.19	△4	10.2	10.8	△6	
主茎長 (cm)	6月20日	6.1	8.0	△1.9	6.0	7.4	△1.4	7.0	8.8	△1.8
	7月20日	35.5	28.2	7.3	34.8	24.6	10.2	38.1	26.9	11.2
	8月20日	58.3	59.9	△1.6	79.9	68.5	11.4	62.8	60.2	2.6
	9月20日	58.3	59.4	△1.1	79.9	72.5	7.4	62.8	60.0	2.8
	成熟期	58.3	59.0	△0.7	79.9	72.0	7.9	62.8	60.2	2.6
主茎節数 (節)	6月20日	0.3	0.6	△0.3	0.3	0.4	△0.1	0.2	0.6	△0.4
	7月20日	7.3	6.2	1.1	7.1	5.4	1.7	7.4	5.6	1.8
	8月20日	13.3	12.8	0.5	15.1	14.2	0.9	13.2	12.6	0.6
	9月20日	13.3	13.6	△0.3	15.1	15.5	△0.4	13.2	13.2	0
	成熟期	13.3	13.2	0.1	15.1	15.4	△0.3	13.2	13.2	0
分枝数 (本/株)	7月20日	2.2	1.9	0.3	1.7	1.4	0.3	2.8	2.4	0.4
	8月20日	4.0	4.9	△0.9	3.3	4.7	△1.4	5.2	6.2	△1.0
	9月20日	4.0	5.0	△1.0	3.3	5.1	△1.8	5.2	6.4	△1.2
	成熟期	4.0	5.1	△1.0	3.3	4.7	△1.4	5.2	6.0	△0.8
着莢数 (莢/株)	9月20日	76.4	78.7	△2.3	54.0	57.9	△3.9	51.0	59.1	△8.1
	成熟期	76.4	78.4	△2.0	54.0	56.6	△2.6	51.0	55.2	△4.2
一莢内粒数(粒)	2.09	2.27	△0.18	1.71	1.81	△0.10	2.00	1.92	0.08	
子実重(kg/10a)	299	313	△14	261	279	△18	287	298	△11	
百粒重(g)	25.1	26.1	△1.0	43.5	40.3	3.2	39.1	42.7	△3.6	
虫喰率(%)	0.6	0.4	0.2	0.8	1.2	△0.4	0.4	0.7	△0.3	
品質(等級)	2下	2中	—	1	2中	—	2上	2下	—	
子実重平年対比(%)	96	100	△4	94	100	△6	97	100	△3	

注) 平年値は前7か年中、昭和56年、61年を除く5か年平均。6月および7月の主茎節数は本葉数。

3. 小豆 昭和62年度の作況: 平年並

事由: 播種は5月20日、出芽期は「宝小豆」が6月11日で平年より3日早く、「エリモショウズ」は平年並であった。6月中、下旬は不順な天候が続いたが、7月上、中旬は降水量が多く、気温も平年並に推移したことから生育は旺盛になり、開花期は3～8日早まった。7月下旬も降水量が多く、土壌は過湿状態となり、8月上、中旬は低温に推移したため、8月20日の生育量は平年並かやや劣っていた。ただし、7月下旬の気温が平年並であったこともあって着莢数(長さ5cm以上)は平年より10～13個多かった。8月下旬は、曇雨天の日が多く、生育はやや停滞した。9月1日の強風により落葉が進み、9月上旬の気象が比較的良好に推移したため成熟期はやや早まった。成熟期は9月8日で「宝小豆」は平年に比べ6日早く、「エリモショウズ」は平年並であったが、主莖節数、分枝数は平年より劣っていた。着莢数、百粒重は平年並であった。一莢内粒数は平年に比べて1粒前後多かったが、8月下旬までの長雨と9月上旬の強風による落葉により、登熟がやや劣り、屑豆率が平年に比べて高くなった。このため10a当たりの子実重は「宝小豆」が215kg、「エリモショウズ」が235kgで平年比がともに99%であった。以上により、昭和62年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次	宝小豆			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.20	5.22	△ 2	5.20	5.17	3	
出芽期(月.日)	6.11	6.14	△ 3	6.10	6.10	0	
開花期(月.日)	7.25	8. 2	△ 8	7.25	7.28	△ 3	
成熟期(月.日)	9. 8	9.14	△ 6	9. 8	9. 8	0	
主莖長 (cm)	6月20日	4.0	2.4	1.6	3.8	3.2	0.6
	7月20日	20.8	9.8	11.0	20.2	12.6	7.6
	8月20日	49.3	43.6	5.7	40.1	49.5	△9.4
	9月20日	49.8	48.2	1.6	39.2	51.5	△12.3
主莖節数 (節)	6月20日	0.6	0.1	0.5	0.6	0.3	0.3
	7月20日	6.3	4.5	1.8	6.2	5.6	0.6
	8月20日	12.5	12.6	△0.1	11.3	12.7	△1.4
	9月20日	11.8	12.9	△1.1	10.8	12.6	△1.8
分枝数 (本/株)	7月20日	2.1	0.7	1.4	2.4	1.1	1.3
	8月20日	3.7	3.1	0.6	3.7	3.0	0.7
	9月20日	2.1	2.7	△0.6	2.3	2.8	△0.5
着莢数 (莢/株)	8月20日	37.7	24.9	12.8	41.1	31.0	10.1
	9月20日	41.3	40.8	0.5	39.4	40.1	△0.7
一莢内粒数(粒)	7.34	6.13	1.21	6.92	5.95	0.97	
子実重(kg/10a)	215	218	△ 3	235	238	△ 3	
百粒重(g)	10.7	10.9	△0.2	12.1	12.2	△0.1	
屑粒率(%)	4.5	2.3	2.2	3	2.1	0.9	
品質(等級)	3下	2	—	2上	2	—	
子実重平年対比(%)	99	100	△ 1	99	100	△ 1	

注)「宝小豆」の平年値は前7か年中、昭和55年、56年を除く5か年平均。「エリモショウズ」の平年値は前3か年平均。6月および7月の主莖節数は本葉数で昭和60年、61年の2か年平均。

4. 菜豆 昭和62年度の作況:不良

事由:播種期は平年より2日早く行った。5月下旬は平均気温がやや低かったが、24日と26日に合計10mm、6月3日に17mmの降水量があり、出芽に好的な土壌水分であった。このため出芽は平年より6日早かった。出芽及び初期生育が順調であったことから、6月下旬の干ばつの影響はほとんどみられなかった。開花始は平年より4日早かった。7月に入って降水量が多く、土壌水分が多く、過湿の影響がみられた。例年は莢先熟であるが、本年は湿害による葉身の黄化が早くなり、成熟期は9月2日で平年より8日早かった。また、湿害のため着莢数は平年より劣った。このため子実重は平年比89%であった。

以上により、昭和62年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	改良早生大福		
	本年	平年	比較
播種期(月.日)	5.21	5.23	△2
出芽期(月.日)	6.7	6.13	△6
開花期(月.日)	7.13	7.17	△4
成熟期(月.日)	9.2	9.10	△8
主茎長 (cm)	6月20日	18	9
	7月20日	293	251
	8月20日	326	303
	成熟期	326	304
主茎節数 (節)	7月20日	23.6	18.8
	8月20日	24.0	27.1
	成熟期	24.0	27.1
分枝数 (本/株)	7月20日	4.9	4.8
	8月20日	3.9	3.5
	成熟期	3.1	3.4
着莢数 (莢/株)	8月20日	31.3	35.2
	成熟期	32.5	44.6
一莢内粒数(粒)	4.75	4.21	0.54
子実重(kg/10a)	268	301	△33
百粒重(g)	68.4	68.9	△0.5
層粒率(%)	3	2.8	0.2
品質(等級)	2	3	—
子実重平年対比(%)	89	100	△11

注) 平年値は前7か年中、昭和56年、60年、61年を除く4か年平均。ただし、成熟期以外の主茎長・主茎節数・分枝数・着莢数および成熟期の主茎節数は昭和59年の値。一莢内粒数は昭和58年、59年の2か年平均。

5. ばれいしょ 昭和62年度の作況: 平年並

事由: 播種期は平年より8日遅かった。萌芽期は平年より4～5日遅れた。萌芽後から6月下旬までは干ばつの影響を受けて初期生育は抑制された。開花期は「男爵薯」が平年と同日であったが、「農林1号」は平年より2日遅れた。7月上旬は降雨日数が5日もあり干ばつは解消された。しかし、7月中は合計13日の降雨日数で土壌水分は著しく多くなり、茎葉は軟弱となり生育は徒長気味であった。茎長は平年より長かった。このため8月中旬には両品種とも倒伏し、その程度は「多」であった。枯凋期は平年より3～5日遅れた。上いも重は平年比で「農林1号」105%、「男爵薯」117%で多収であった。しかし、7月上旬から8月上旬までと、8月下旬は土壌水分が多く、しかも8月中の日照時間が少なめに経過したため、でん粉価は平年より1.2～2.8%低かった。でん粉重は平年比で93～97%であった。塊茎の障害として、中心空洞がみられ「男爵薯」はL(120g)以上で30%、「農林1号」は2L(240g)以上で10%認められた。
 以上により、昭和62年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次	農林1号			男爵薯			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	5.11	5.3	8	5.11	5.3	8	
萌芽期(月.日)	6.5	6.1	4	6.7	6.2	5	
開花期(月.日)	7.4	7.2	2	7.5	7.5	0	
枯凋期(月.日)	9.29	9.24	5	9.5	9.2	3	
茎長 (cm)	6月20日	15	21	△6	10	17	△7
	7月20日	71	54	17	56	33	23
	8月20日	104	62	42	66	36	36
茎数 (本/株)	6月20日	4.8	4.8	0.0	3.3	4.0	△0.7
	7月20日	5.2	5.0	0.2	3.8	3.9	△0.1
	8月20日	5.2	4.9	0.3	3.4	3.9	△0.5
上いも重(kg/10a)	4,490	4,259	231	3,958	3,376	582	
でん粉価(%)	14.1	15.3	△1.2	11.9	14.7	△2.8	
でん粉重(kg/10a)	588	609	△21	431	463	△32	
上いも重平年対比(%)	105	100	5	117	100	17	
でん粉重平年対比(%)	97	100	△3	93	100	△7	

注) 平年値は前7か年中、昭和56年、58年を除く5か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

6. てんさい 昭和62年度の作況:不良

事由:播種はほぼ平年並の4月6日に行った。5月上旬の天候が不順であったため、移植期は平年より8日遅い5月14日であった。移植時の土壌水分が適当であったため、活着は良好であった。その後、6月下旬まで降水量が少なく、ほ場が乾燥したため、初期生育は緩慢であった。7月上旬に合計80.5mmの降水量があり、ほ場の乾燥状態が解消され、地上部の生育はほぼ平年並に回復した。その後、7月に57.5mmの降水量があり、ほ場は過湿状態となった。このため、地上部は徒長気味の旺盛な生育を示したが、根部の肥大は不良であった。8月上・中旬は低温、寡照に経過し、下旬に190.5mmの集中豪雨があったため、収穫期まではほ場の過湿状態は解消されなかった。この結果、収穫期の地上部の生育は、平年より上回ったが、根部の肥大は不良であった。根中糖分は平年より高い値であった。収穫期の根重は「モノドリ」が5.11t/10a、「モノヒカリ」が5.47t/10aで、それぞれ平年の76%と73%であった。根中糖分は「モノドリ」が17.32%、「モノヒカリ」は17.63%で、それぞれ平年比で7%と5%高かった。糖量は「モノドリ」が885kg/10aで平年比81%、「モノヒカリ」は964kg/10aで平年比77%であった。

以上により、昭和62年度の作況は不良である。

品種名(栽培法) 項目/年次	モノドリ(移植)			モノヒカリ(移植)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	4.6	4.5	1	4.6	4.5	1	
移植期(月.日)	5.14	5.6	8	5.14	5.6	8	
収穫期(月.日)	10.13	10.16	△3	10.13	10.16	△3	
草丈 (cm)	5月20日	5.2	5.2	0.0	5.1	4.1	1.0
	6月20日	21.7	23.0	△1.3	20.1	24.5	△4.4
	7月20日	59.0	50.6	8.4	53.1	49.9	3.2
	8月20日	63.6	56.0	7.6	62.1	58.0	4.1
	9月20日	61.8	58.6	3.2	63.2	58.9	4.3
	収穫期	59.4	56.7	2.7	60.4	60.3	0.1
葉数 (枚)	5月20日	2.4	3.2	△0.8	2.5	2.4	0.1
	6月20日	8.7	9.5	△0.8	8.7	9.9	△1.2
	7月20日	18.1	18.2	△0.1	21.7	19.7	2.0
	8月20日	23.8	24.6	△0.8	27.5	26.4	1.1
	9月20日	28.9	28.7	0.2	29.4	29.2	0.2
	収穫期	30.0	30.5	△0.5	29.4	26.5	2.9
根周 (cm)	7月20日	21.5	22.1	△0.6	19.3	22.4	△3.1
	8月20日	26.9	30.9	△4.0	27.5	31.4	△3.9
	9月20日	33.4	35.2	△1.8	33.6	35.9	△2.3
	収穫期	34.7	38.1	△3.4	34.7	38.0	△3.3
茎葉重(t/10a)	6.56	5.74	0.82	5.89	5.53	0.36	
根重(t/10a)	5.11	6.74	△1.63	5.47	7.46	△1.99	
根中糖分(%)	17.32	16.22	1.1	17.63	16.75	0.88	
糖量(t/10a)	885	1,093	△208	964	1,250	△286	
根重平年対比(%)	76	100	△24	73	100	△27	
根中糖分平年対比(%)	107	100	7	105	100	5	
糖量平年対比(%)	81	100	△19	77	100	△23	

注) 平年値は前7か年中、昭和55年、56年を除く5か年平均。